

平成 26 年度 公益財団法人焼津市振興公社事業報告

1. 総括事項

公益財団法人焼津市振興公社は、その目的を達成するため、平成 26 年度において概ね次のような事業を行いました。

(1) 地域文化の振興

焼津文化会館及び大井川文化会館では、国内外の優れた芸術文化の鑑賞機会を広く市民に提供するとともに、市民の芸術文化活動を支援するため自主文化事業を鑑賞型、普及・協働型、市民参加型と位置づけ、バランスよく積極的に実施しました。事業の実施については、市民の要求と経済性を考慮した上で良質な催事を企画し、他の団体・機関との共催事業を含め 73 本（焼津 45 本・大井川 28 本）の自主文化事業を行い、多くの市民の鑑賞・協力・参加を得て、好評を博しました。

観客動員の増加対策として、コンサート等で来場者アンケートを実施しております。お客様のニーズに応えることを第一に、年齢層によってどのような媒体で情報を得ているのかなど調査し、公演内容に合ったテレビ、ラジオ、新聞広告等のメディアの有効利用や、チケット発売前に志太榛原地域の公共施設をはじめ観光施設・スーパー・美容院などへチラシポスターの掲示を依頼する PR も積極的に行いました。

お客様の利便性やサービス向上を目的に平成 23 年度導入したチケットシステムは、インターネット予約やコンビニでのチケット受け取りも可能となりました。チケットシステム導入年度はインターネット会員登録数約 400 名（内メールマガジン希望者数約 300 名）に対し、現在は会員数約 4,400 名（内メールマガジン希望者数約 2,000 名）となりました。

また、インターネットでチケットを購入する方の割合も導入年度は 5%程度でしたが、現在は 25%まで伸びお客様の利便性・サービス向上に繋がる結果に結びつきました。

より多くの方が芸術文化に触れることができるよう託児サービスや普段鑑賞機会の少ない育児中の方を対象にしたミニコンサートなども行い、年齢性別問わず誰もが芸術文化に触れることができるよう取り組みました。

ディスカバリーパーク焼津天文科学館では、光学式プラネタリウムと国内最高水準となる CG による統合型プラネタリウムを活用し、小学校の理科授業に伴う学習投影のほか、名誉館長である松本零士先生の「銀河鉄道 999」、アニメで話題となった「ワンピース」や「ポケットモンスター」などを投影しました。

また 1 階展示・体験室では、職員の自主制作により、見て、触れて、体験しながら科学を学べる参加体験型の特別展「びっくり！トリック科学館」などを開催し、好評を得ました。

さらに 25 年度に続き、26 年度も理科担当教員による夏休みの理科自由研究相談会を開催しました。また、26 年度は、志太教育研究会理科研究部研修会が当館で開催されました。今後とも、ディスカバリーパーク焼津天文科学館が地域の理科及び科学教育の拠点となるよう努めます。

(2) 公の施設等の管理運営の受託

地域文化の振興拠点である文化センターの施設管理と両文化会館の運営、天文科学館の管理運営、ディスカバリーパーク焼津内の公園・広場の維持管理を受託しました。

両文化会館及び天文科学館の施設運営につきましては、市民の様々な要求と期待に添うことができるよう、複合施設としての機能を生かすとともに、弾力的、効果的な運営に努めました。その結果として、焼津文化会館では大小ホール、会議室等の効率的な貸館業務の運営を行い、年間利用者数は 261,040 人、大井川文化会館では、利用者数 87,249 人となりました。

また、天文科学館では、天文科学に関する様々な事業を企画・実施することにより、一般来館者や小中学校をはじめとする多くの団体にご利用いただき、年間有料入場者数は、107,290 人となりました。

以上により、今期の収支は経常収益 574,395,954 円、経常費用 570,770,900 円、経常外収益 0 円、経常外費用 0 円で当期経常増減額 3,625,054 円となりました。これに法人税等 679,700 円を差引し、当期一般正味財産増減額は 2,945,354 円となりました。

今後とも、焼津市との緊密な連携の下、公社の合理的な運営を図り、市民サービス向上に一層の努力を重ねる所存です。

<附属明細書の作成について>

平成 26 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附則明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しておりません。